

令和5年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)

大阪市立貫江田幼稚園  
令和6年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

- 本園の子どもたちは、自分の好きなことや興味のあることに一生懸命に取り組む姿が多く見られる一方で、集団生活のルールや決まりを守りながら園生活を送ることが苦手な姿が見られる。特に 5 歳児は、友達の遊びに興味や関心はあるが、友達とイメージを共有して、主体的に遊びを進めることが難しいという課題がある。
- 友達との関わりにおいて、特に 5 歳児は、友達の姿を互いに見る機会は増えてはきたが、自分の思いを言葉で伝えることが難しいのが本園の現状と課題である。
- 幼稚園生活が幼児にとって安全で安心できるものとなるように早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的習慣を身につけ、心身ともに健やかに成長できるよう家庭との連携を深めていくことが必要である。家庭でも継続できるような指導方法の工夫が課題である。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。
- 保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の肯定的回答の割合を 95 %以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。
- 保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。
- 保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の項目で「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の幼稚園運営の全体を通して、目標達成に向けた3つの視点において、次の成果が見られた。

#### ●「安心・安全な教育の推進」について

- ・園内の環境について毎週見直しを行い、安全に過ごすための手立てを工夫するとともに、非常時における行動について考える機会をもった。
- ・教師が幼児一人一人の思いを受け止めながら個別に支援方法を工夫したり、教職員同士が連携して子どもの様子を多面的に見たことで、安心して園生活を送る姿が見られた。
- ・友達と一緒に過ごす楽しさを味わえるような活動を教師が意識して取り入れることで、互いに声を掛け合ったり励まし合ったりして友達を大切にする姿につながった。

#### ●「未来を切り拓く学力・体力の向上」について

- ・就学前教育カリキュラムをもとに月案、週案を立案し、活動の前後の振り返りの時間を充実させたことで、子ども同士で互いに協力して遊びをすすめたり、次の見通しを立てながら活動したりする様子が見られた。
- ・毎月子どもの実態に即した保健指導を行ったことで、手洗いや歯磨きの習慣がついたり、栄養素への関心が高まり、健康な生活への関心が高まった。

#### ●「学びを支える教育環境の充実」について

- ・施設見学や職場体験など近隣の小中学校の児童・生徒との交流を実施し、親しみや憧れの気持ちをもった。
- ・コミュニティーセンターで地域の方に歌を聴いてもらったり、更生保護女性会による絵本の読み聞かせのあと作品展の参観を実施し、子どもの成長を見てもらい保育内容を周知することができた。

アンケート結果では、全ての項目で肯定的回答の高い割合を得ることができた。

今年度の成果と課題を受けて、次年度以降も幼児理解に努め、教職員の資質向上と保育内容の充実を図る。

## 様式 2

## 大阪市立貫江田幼稚園 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> <b>学校園の年度目標</b> ○保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</b> 学校安全計画に基づき、安全指導や防災指導を行う。	
<b>指標</b> ·年 6 回以上、様々な状況を想定した避難訓練を実施する。 ·学期に 1 回、子どもと教職員で園内の安全点検を実施する。 ·保護者アンケート「遊具や用具の安全な扱い方を考えて、遊ぶようになってきた」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B
<b>取組内容②【2 豊かな心の育成】</b> 互いを認め合う機会を保育に積極的に取り入れ、自己肯定感の向上に努める。	A
<b>指標</b> 月 1 回以上、異年齢交流を計画して取り組む。	
<b>取組内容③【2 豊かな心の育成】</b> 子どもが互いを認め合い一人一人を大切にするクラスづくりをする。	A
<b>指標</b> ·1 日 1 回以上、友達や教師の話に興味・関心をもって聞いたり話したりする機会をもつ。 ·学期に 1 回以上、自分や相手の気持ちに気付けるような題材の視覚的教材を保育に取り入れる。	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

## 学校園の年度目標

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている	100%	98%	98%	83%	89%	89%
友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた	99%	99%	98%	65%	72%	73%

## 取組内容①

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
遊具や用具の安全な扱い方を考えて、遊ぶようになってきた	100%	100%	100%	54%	73%	72%

- ・4月（火災）、5月（火災）、6月（火災）、9月（地震・火災）、10月（防犯）12月（火災）1月（地震・津波）の計7回避難訓練を実施し、教職員一人一人がとるべき行動を考えた。子どもとは、年齢に応じて毎回命の大切さや身を守るための行動を話し合った。6月には福島消防署員に訓練の様子を見てもらい、注意点を指導してもらった。子どもは消防車を見学し、親しみを深めた。10月、1月の避難訓練では、小学校に避難するにあたって避難経路や連携の取り方について打ち合わせを行った。
- ・1学期から、時間を知らせず訓練を実施し、いつでも非常時における望ましい行動がとれるよう知らせた。子どももよくベルと放送を聞いており、素早く行動することができた。
- ・週案打ち合わせで安全面について見直し、気を付ける点を話し合った。園内の点検を子どもと一緒にを行い、危険な箇所の確認をすることで安全に過ごすためにどうすればよいか、子ども自身が考えることができた。また、子どもと園庭の小石拾いや落ち葉拾いをし、安全に遊べる環境づくりに努めている。
- ・夏季休業中に不要物の処分と園内整理を行った。併せて空き保育室の掃除と整頓を行い、絵本の整理や物品の移動をした。整理整頓をしたことで広々とこま回しができるスペースを確保できたり、静かな環境で過ごしたい子どもの休息場所になったりして子どもたちが伸び伸びと過ごす姿が見られた。
- ・プール事故発生時初期対応研修を行い、事故発生時における対応について教職員間で共通理解を図った。
- ・1学期にチャイルドビジョンを使い保護者啓発を行った。しかし、2学期の園外保育で車が来ても避けようとしない子どももいた。自転車での通園も多く、交通ルールについて知ってはいるが経験不足のため危機感をもてないという実態があるため、再度保護者啓発をしたことで徒歩通園が増えた。しかし、保護者と離れて子どもだけ走ってしまう姿が増えたため、子どもへの指導を行い、安全に登園する姿が増えた。
- ・2月に大阪府警察署交通安全教育班の交通安全教室を実施し、道路標識の意味や道の渡り方について実技指導を受けた。
- ・園外保育の前に、各クラスで公共のマナーや守るべきルールについて話し合うことで、安全に行動していた。
- ・園庭遊具でケガがあったため、一輪車のバーの色を目立つ色に塗り替えたり、総合遊具の綱を撤去したりするなど、安全に遊べるように園庭環境の見直しを図った。
- ・運動会に向けての活動では運動遊具の安全な使い方を、作品展に向けての活動では制作道具の安全な使い方について確認し繰り返し指導したこと、安全に使うことができた。

## 取組内容②

- ・主な異年齢活動
  - ・4月…5歳児が4歳児に身の回りの始末の仕方を教える
  - ・5月…5歳児が4歳児に園生活の約束を教える
    - 園外保育（鷺洲上公園）
    - ・6月…園外保育（下水道科学館）
    - ・7月…夏祭り
    - ・10月…運動会ごっこ
  - ・11月…音楽会 作品展事前鑑賞
  - ・12月…作品で遊ぶ
  - ・1月…マラソン・体を温める遊び
  - ・2月…生活発表会見合いっこ
    - お別れ会・節分遊び
    - 5歳児が4歳児に楽器の遊び方を教える
  - ・その他…遊戯室や園庭で一緒に遊ぶ、体操をするなど

〈1学期〉5歳児は、4歳児に身の回りの始末の仕方や園内の約束を教えたり、誕生会で4歳児とペアで座ったり、園外保育でペアで活動したりしたこと、年長児としての自覚をもてるようになった。4歳児は、同じ個人マークの5歳児とペアを組んだことで、親しみがもてた。

〈2学期〉・運動会に向けて、お互いの競技や演技に興味をもっていたので、運動会後、運動会ごっこで一緒に遊んだ。5歳児は優しく教えたり、認めたりしていた。

- ・作品展前日に作品の見合いっこをした。自分の作品を紹介したり、つくったもので遊んだりし合った。認めてもらうことで自信につながった。
- ・一時預かり保育をきっかけに仲良くなっこことで、保育中も関わる姿が見られるようになっている。

〈3学期〉・生活発表会前には各クラスがみんなの前で発表する機会を設けたことで、見てもらう嬉しさや喜びを感じることができ、友達に認めてもらったことで更に意欲的に取り組むことができた。生活発表会後には、5歳児が4歳児に大太鼓などの楽器の使い方を教えた。4歳児から感謝気持ちを伝えられたことで5歳児の自信につながった。また4歳児は、次年度への期待が深まった。

- ・節分遊びで、5歳児つき組が鬼となり他クラスへ行き節分遊びをした。自分たちで考えた遊びを友達が喜んで参加してくれたことで遊びを展開する楽しさを感じられた。5歳児そら組は作品展でつくった鬼を園庭に出し、各クラスが節分遊びを楽しんだ。

### 取組内容③

〈4歳児〉

- ・入園当初は不安も強かったので、まず自分の気持ちを教師に出せるように働きかけた。6月頃から、園生活にも慣れて友達への興味が出てきたことで、遊んだ後、楽しかったことを発表する場をもつと、友達の話に興味をもち、「私もやった」「楽しかった」などと共感する姿が見られるようになってきた。
- ・1学期から「忍者ごっこ」を園生活に取り入れてきた。運動会で、忍者になりきって友達と声をかけ合ったり、協力したりすることで、「みんなですると楽しい」ということを実感し、自分の思いを出せるようになってきた。作品展では、みんなで考えを出し合い、試すことを繰り返すことで、自分の考えを相手に分かるように伝えようとするようになってきた。また、つくった忍者を使って忍者の家や修行場で、忍者ごっこを楽しむことで、相手の気持ちを聞いたり、友達の作品を認めたりする姿が見られた。友達に認めてもらうことが自信につながっている。
- ・劇遊びを通して、絵本の登場人物の気持ちを考え、表情や態度での表し方をどう表現したらよいか、言葉でなんと言ふかを考えるきっかけになり、相手の気持ちを知ることが少しずつわかつってきた様子が見られる。また、生活発表会を通して相手の気持ちを考え動く姿が見られるようになった。
- ・絵本『ふわふわとちくちく』を見て、どんな言葉を言われてうれしいか知り、言葉の意味を理解して子ども同士声を掛け合う姿が見られるようになった。

〈5歳児〉

- ・毎日振り返りをし、友達の話を聞く機会をもってきたことで、子どもからのアイデアが広がり、クラスの遊びへつながっていった。遊びの中で、友達の意見を聞く姿が見られた。また、相手の気持ちに気付くように、教師が仲立ちをしたり、表情カードやホワイトボードを活用して視覚的に分かりやすくしたりして働きかけた。この取り組みをしてきたことで、今では、友達の表情を見て、怒っている、泣いているなどの理由を考え、状況反射の「ごめん」でなく真剣に友達の気持ちをつかめることができるようになった。運動会や作品展を通して、友達と協力する中で、相手の気持ちを考える機会が増えたことで、互いに認め合えるクラスづくりにつながった。また、『はじめてのおつかい』や『おこる』など、絵本を活用していろいろな気持ちを疑似体験する機会も大切にした。
- ・生活発表会の劇遊びを通して、『ももたろう』では、鬼がどうして村を荒らしたのかや解決策を考え、みんなが幸せになれる気持ちを考え、『ブレーメンの音楽隊』では、動物が追い出された時の気持ちや出会った動物と仲間になるときの気持ちを考え、相手の思いに寄り添い思いやる気持ち

をもてるようになった。また、相手のことを考えて、動いたり、言葉をかけたりできるようになった。ふわふわとちくちく言葉を知り、伝えるときにどう言い換えて伝えればよいかと知ることができた。

#### 次年度への改善点

##### 取組内容①

- ・保護者メールを活用した引き渡し訓練や、地震と火災が同時に発生した際の避難、教職員にも事前予告なしの訓練を実施する。

##### 取組内容②

- ・活動の計画を事前に話し合いその後も継続して交流できるようにする。

##### 取組内容③

- ・今後も教師が一人一人の思いを受け止めながら、信頼関係を築き、幼児が安心して自分の気持ちを出せるようにしていく。
- ・活動後の振り返りを大切にし、友達の前で自分の思いを出し、友達の思いを知り、共感する機会を大事にしていく。

## 様式 2

## 大阪市立貫江田幼稚園 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> 学校園の年度目標 ○保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 友達と思いや考えを出し合いながら、意欲的に遊ぶための環境構成や指導方法を工夫する。	B
指標 ・週 1 回、保育の振り返りを行い、子どもの実態を基に週案を立案し、実践する。 ・保護者アンケート「子どもは、いろいろな経験を通して、意欲的に遊ぶことを楽しんでいる」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 様々な絵本やお話に親しむ機会をもつ。	B
指標 ・週 1 回以上、絵本の読み聞かせや絵本貸し出しを行う。 ・園行事に絵本やお話に親しむ機会を取り入れる。 ・保護者アンケート「相手の話を聞こうとする気持ちが育ってきた」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B
取組内容③【5 健やかな体の育成】 子どもの実態を把握し、担任と養護教諭が継続して指導を行い、家庭との連携を図る。	B
指標 ・年 5 回以上、生活習慣調査を実施し、家庭での実態を把握する。 ・子どもの実態・発達に応じた保健指導を月 1 回以上実施する。 ・月 1 回以上保健だよりや掲示物等を活用し、保護者啓発及び家庭との連携を図る。	B

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

学校園の年度目標	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった	98%	100%	100%	58%	77%	77%
子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった	95%	100%	100%	44%	48%	69%
子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった	97%	97%	100%	62%	61%	75%

取組内容①

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
子どもは、いろいろな経験を通して、意欲的に遊ぶことを楽しんでいる	100%	100%	100%	78%	81%	80%

- ・週1回、保育の打ち合わせを行い、子どもの育ちや今後の見通しなどを共有し、週案を立案して実践した。
- ・4歳児では、入園当初は園生活の流れや約束事が分かるように教師が繰り返し伝えたり視覚支援を行ったりしながら、安心して園生活を送れるようにしていった。一人一人と関わりながら、教師との信頼関係を築いたことで、好きな遊びを見つけたり、友達の存在に気づいたりするようになった。2学期、運動会では忍者になって体を動かすことを楽しめるように、いろいろな修行を子どもたちと考えながら遊び、忍者からの巻物（手紙）や衣装を用意して意欲的に取り組めるようにした。作品展では“忍者”をテーマにいろいろなものをつくって遊んだ。子どもの思いを引き出し、受け止め、実現できるように教師が素材を準備したり一緒に考えたりしながら保育室を飾っていった。友達と一緒に忍者のお城や術を磨く場などをつくることを楽しめるように、クラス全体やグループで活動できるようにし、4歳児なりに友達と相談しながら協力しながらつくることを楽しんだ。3学期、子どもの興味・関心のある絵本をもとに劇遊びを進めていった。初めはかえるごっこやおばけごっこなど、普段の生活や遊びの中で、なりきりながら友達と一緒に表現することを楽しめるようにし、遊びに親しんでいけるようにした。遊びながら友達との言葉でのやり取りを楽しんだり、お話の内容や感情にそって表現を考え合ったりするようになり、自信をもって劇遊びに取り組む姿が見られた。なわとびやコマ回しなど、友達の頑張っている姿や友達ができるようになった姿を素直に認めあいながら、刺激を受けたことで、自分も挑戦しようと意欲的に取り組む姿がみられるようになった。
- ・5歳児は、共通の目的をもって考えを出し合ったり、協力したり、役割分担したりしながら遊べるように計画し実践した。思いが実現できるように、クラス全体で考えることを繰り返し行うことと、思いを共有して考えを出し合い、意欲的に遊ぶことができた。運動会の、太鼓やパラバーンの演技ではリズムや動きを友達と考えたり友達とタイミングを合わせたりした。リレーや綱引きの団体競技では作戦を考えたり応援し合ったりした。縄跳びや鉄棒などのチャレンジ遊びでは、できないと諦める姿があったが、友達と刺激を受け合うことで諦めずに根気よく取り組めた。教師は補助をしたりコツを伝えたりしながら励まし、できたときには大きく認めることで、達成感や満足感を味わわせることができた。作品展では、クラス全体で同じ目的をもって自分たちで次々に考えを出し合いながらつくることを楽しんだ。生活発表会では、クラス間で劇遊びを見合い、客観的に見ることで、劇遊びでの声の大きさやお客様への見せ方、歌声のきれいさなどに気づき、更に生活発表会への意欲につながった。また、生活発表会後に、互いの劇を交換して演じることを楽しんだり、4歳児に楽器の使い方を教えてあげたりする機会をつくり、遊びが継続できるように保育内容を工夫した。カープラで遊ぶことが好きで、互いのクラスを行き来したり刺激を受け合ったりしながら遊んでいる。昨年度は全員が同じクラスだったことや十分なカープラの量があったり、教師が互いの子どもたちを受け入れ合ったりしたことで、役割分担しながら遊ぶ姿につながった。

取組内容②

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	6月	10月	1月	6月	10月	1月
相手の話を聞こうとする気持ちが育ってきた	91%	98%	96%	37%	49%	49%

- ・週1回、絵本の貸し出しを行い、親子で絵本に親しむ機会をもった。また、11月には中央図書館の配本絵本も貸し出し絵本として活用した。卒園児や学校生協からの寄贈もあり蔵書も増えた。
- ・毎月の誕生会では、園長が季節や遊び、行事にあった絵本を読んでいる。
- ・5月、11月に、福島区更生保護女性会による読み聞かせを実施した。クラスでは大型絵本を読む機会が少ないので、普段見ない大きな絵本に興味をもっていた。
- ・7月、10月に図書館読み聞かせのボランティアによる絵本の会を実施した。
- ・各クラス、毎日絵本の読み聞かせをしている。5歳児つき組は、『ブレーメンの音楽隊』の家やごちそうに興味をもったことで、作品展での製作活動を楽しんだ。繰り返し読んだ絵本なので生活発表会ではどの楽器を使って登場するかなど自分たちで考えて進めることができた。5歳児そら組は、『ももたろう』に親しみをもち、作品展で鬼ヶ島、船をつくった。生活発表会への取り組みでは子どもが結末を考え、演じることを楽しんだ。4歳児は毎日読むことで絵本に親しみをもち、年度当初より集中して聞くようになった。
- ・12月に小学校の図書室へ行った。幼稚園にはない絵本がたくさんあり、友達と絵本を選び、読むことを楽しんだ。司書に図書室の約束を教えてもらい、就学への期待が高まった。
- ・中央図書館からの配本を週末の貸し出し絵本にしたことで、「兄弟に読んであげる」と小さい子向けの絵本を借り、家で先生役になりながら読む姿があった。

### 取組内容③

- ・保護者アンケートやきらきらカレンダーで実態把握をし、月1回以上保健指導を実施とともに、習慣化できるように視覚物を作成し保健室前に掲示した。
  - 4月…正しいトイレの使い方（年少）、朝の準備を自分でしよう（年長）
  - 5月…手洗い・うがい
  - 6月…歯のみがき方、熱中症対策、足指体操
  - 7月…早寝早起きをしよう
  - 8、9月…朝ごはんの大切さ
  - 10月…ブラックライトを使用した手洗い指導、お箸の正しい持ち方
  - 11月…排便指導
  - 12月…風邪予防、あいうべ体操
  - 1月…3大栄養素
  - 2月…交通安全教室、脱脂綿を使用した手洗いチェック
  - 3月…ふわふわ言葉とちくちく言葉
- ・保健指導内容を保健だよりに掲載したり、お野菜カードやきらきらカレンダーを発行したりして家庭で実践する機会を設けたことで、保護者啓発とともに家庭での協力を得ることができた。
- ・早寝早起きに関しては、2学期から月1回くじら列車週間を設け、継続して21時就寝、9時までの登園を意識づけられるように取り組んでいる。しかし、アンケート結果では起床時間・就寝時間ともに遅くなっている、朝ごはんを毎日食べる割合も減少していることから、起床時間の遅れによる影響も一因として考えられた。2学期終業式の保護者会で睡眠の大切さについてパワーポイントを使用して話をし、早寝早起きへの意識向上を図った。
- ・歯磨きをすすんでるに対し「そう思う」と回答する割合は増加しているが、仕上げ磨きを毎日しているかに対しては「そう思う」と回答する割合が減少していた。6月に実施した保健指導以降、歯磨きができるようになってきた証拠ではあるが、小学校4年生ごろまでは仕上げ磨きが必要といわれているため、保護者会で再周知をした。
- ・10月より4歳児に箸の持ち方の指導を実施した。全体指導の後、個別指導で箸を正しく使うように継続して取り組んできた。5歳児も前年度に続き、昼食後に個別指導を実施した。
- ・5月に「あわあわ手洗いの歌」での手洗い指導、10月にはブラックライトを使用した視覚的な手洗い指導、2～3月は脱脂綿を使用した手洗いチェックを実施した。アンケート結果では「お

子さんは手洗い・うがいを丁寧にするようになりましたか」の項目で「そう思う」と回答した割合が2学期で61%に減少したものの、3学期に75%へ増加しており、継続的な指導と担任からの日々の声掛け、保護者啓発、きらきらカレンダー等の実施により今回の結果が得られたと考えられる。

#### 次年度への改善点

##### 取組内容①

- ・意欲的に遊ぶことを楽しめるように、まずは教師との信頼関係を築き、安心して園生活を過ごせるように働きかける。教職員が増えるので、連携を図れるように互いに積極的に保育についての意見を出し合うようとする。

##### 取組内容②

- ・来年度の週末の絵本の持ち帰り日数や絵本カードの使用の仕方を検討する。

##### 取組内容③

- ・来年度から3歳児が入園するため、3歳児にも伝わる保健指導内容や家庭での実践方法を検討する。また2号認定子どもが入園するにあたって、2号認定の家庭との連携の取り方を考えていく。
- ・来年度は新入園児が多いため、教員と連携を図りながら、手洗い・うがいや歯磨きの啓発を日々繰り返し、習慣づけられるようにする。また丁寧な手洗いや歯磨きが継続して行えるように、養護教諭が見回りをして個別指導を行うとともに、学期ごとにも保健指導を行う。

## 様式 2

## 大阪市立貫江田幼稚園 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <b>学校園の年度目標</b> ○保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の資質向上に努める。 指標 ・学期に1回、就学前教育カリキュラム、大阪市立幼稚園教育研究会参考教育課程をもとにして教育課程の見直しをする。 ・年5回以上園内研修会を実施する。 ・年4回以上実践記録をとり、子どもの育ちや教育的意図をもった働きかけについて検討する。 ・学期に1回以上、ICT機器を保育に活用する。	B
取組内容②【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 幼稚園の取り組みを家庭や地域、他校種に発信するとともに、連携する。 指標 ・学期に1回以上、他校種と実施方法を工夫して交流し、連携を図る。 ・年3回、地域と実施方法を工夫して交流する。 ・週1回以上、ホームページを更新して、保育内容を広く発信する。 ・保育参観やポートフォリオなどを活用して、家庭に保育内容を発信し、理解を促す。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析						
学校園の年度目標	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている	100%	99%	98%	76%	85%	81%

取組内容①
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業を活用し、教育課程の見直しをしている。</li> <li>・1学期の遊びについてドキュメンテーションを各担任が作成し、教職員で子どもの育ちや教師の働きかけや環境構成について園内研修を行った。作品展に向けての遊びについてもドキュメンテーションを作成し、教員自身で働きかけや環境構成、子どもの育ち振り返りを行った。</li> <li>・1学期に全クラス合同で園内研修を行った。2学期に2クラスが、3学期に2クラスと養護教諭が園内研修を行い、保育後、子どもの姿をビデオ撮影したものを見て討議を行った。</li> <li>・実践記録を2回とり、協同性につながる子どもの姿を捉え、昨年度の経験も生かしながら働きかけや育ちを見直し、研究に取り組んでいる。12月に研究成果発表があり、専門委員を中心に、教職員で2年間の研究の成果について共有、議論を行った。</li> </ul>

- ・ＩＣＴ機器に活用については、保健指導でパワーポイントを使い視覚的に分かりやすいようにした。園外保育では事前に下水道科学館のホームページを見せ、期待を高めた。音楽会では歌声や立ち方がわかるように、動画や写真を撮り、客観的に自分たちの姿を見られるようにした。生活発表会ではプロジェクターを使用して影絵遊びを楽しめるようにした。また、子どもの姿を動画や写真に撮って見せることで、客観的に自分たちの姿を見ることができ、観客への見せ方に気づけるようにした。

#### 取組内容②

- ・3歳児対象未就園児活動（みみちゃんクラブ実行委員会主催）では、園児が園庭で一緒に遊んだり、体操したりするなど優しく関わった。
- ・隣接小学校を訪問し、中庭で遊んだり施設の見学をしたりする機会をもった。6月に小学校中庭のアジサイや池のコイやカメを見たり、遊具で遊んだりした。10月には校庭で運動会に向けての活動を楽しんだ。12月には校庭で凧揚げをした。また、図書室を訪問し、小学校の様子を知ることができた。3学期は、感染症の流行もあり、施設見学は見合わせた。
- ・近隣中学校2校から職場体験で来た中学生と関わった。自己紹介をして名前を知らせ合い、一緒に木製遊具で遊んだり、作品づくりの際に手伝ってもらったりしてふれあうことができた。作品展後、お礼訪問に来た中学生とつくった作品で一緒に遊び、たくさん褒めてもらって自信をもった。
- ・鷺洲コミュニティセンターで大阪市立幼稚園音楽会で親しんだ歌を披露した。地域の方と一緒に歌っていただいたり、「またおいでね」と声をかけてもらったりするなど、心温まる交流ができた。
- ・福島区更生保護女性会の方に作品展の様子を見ていただいた。「これ僕がつくった」「見て見て、こうやって遊ぶよ」と意欲的に作品を紹介していた。たくさん褒めてもらい、自信につながった。
- ・クラスだよりをホームページに載せている。カラーで保育の様子を保護者に知らせることができ見やすいと好評である。ホームページの学校日誌の更新も積極的に行い、幼稚園教育について周知している。
- ・保育参観後にクラスの様子を具体的に担任から話したり、2学期始業式にドキュメンテーションを用いて子どもの育ちを保護者に伝えたりする機会をもった。作品展では当日に向けての子どもの活動についてドキュメンテーションを作成し、遊びの流れや子どもの育ちを知らせ、幼稚園教育の理解・推進に力を入れている。保護者からは、「ドキュメンテーションを見るのがすごく楽しみ」「育児の参考になる」「子どもが作品をつくっている様子がよくわかり、成長を実感できた」という意見があった。
- ・毎日の降園連絡と併せて、必要に応じてホワイトボードで活動内容を掲示し、保育への理解を促した。口頭より伝わりやすく、長期欠席児の保護者への対応の一助となった。

#### 次年度への改善点

#### 取組内容①

- ・今年度の4歳児、5歳児の教育課程の見直しを実施する。来年度の認定こども園化に向けて、3歳児の教育課程を作成する。
- ・次年度、教職員間で保育内容についての連携が図れるように、教育課程を活用しながら保育の進め方について共通理解を行い、日々の指導計画を立てるようにする。

#### 取組内容②

- ・小学生との交流を計画し、実施する。
- ・保護者への周知方法について検討する。